

令和元年度 第2回学校評価(自己評価)の結果について

令和2年1月

1 評価方法

11月 … 「学校生活(児童)アンケート」「保護者アンケート」を実施する。
(4段階評定と自由記述)

12月 … 児童・保護者アンケートの結果を参考にし、全教職員が設定した目標の達成状況
や取組について自己評価を実施する。(4段階評定と自由記述)

1月 … 自己評価の結果と今後の改善方策をまとめる。(肯定率・評定平均値の集計と考察)

2 アンケート結果

【評 定】 4:よくあてはまる 3:ややあてはまる 2:あまりあてはまらない 1:全くあてはまらない
【肯定率】 評定4と評定3の合計値(%) *変更点・・・今回から「肯定率」も表記

番号	対象	質 問 項 目	肯定率 (%)	評定 平均
1	児童	学校に来るのが楽しい。	100	3.8
	保護者	お子様は、毎日楽しく学校生活を送っている。	100	3.7
	教職員	教育目標「豊かな心で主体的に活動する児童の育成」の実現に向け、効果的な教育活動を実施している。	100	3.4
2	児童	授業は分かりやすい。	95	3.7
	保護者	お子様は、授業内容をよく理解し、楽しく学習に取り組んでいる。	68	2.9
	教職員	学習課題を明確にし、分かる喜び、共に学ぶ喜びが実感できる授業づくりに努めている。	90	3.0
3	児童	テストのできなかったことを見直してできるようにしている。	94	3.5
	保護者	お子様は、分からなかったところや苦手なことに取り組んでいる。	63	2.8
	教職員	学力や体力に関する調査等の結果を指導に生かしている。	86	2.8
4	児童	家で毎日、読書や宿題をしている。	100	3.8
	保護者	お子様は、意欲的に読書や宿題・自主勉強に取り組んでいる。	63	2.6
	教職員	読書や家庭学習の習慣付けに努めている。	100	3.4
5	児童	ねばり強く体力づくりに励んでいる。(外遊び、すもう、水泳、陸上、マラソン、なわとびの練習などを含む。)	91	3.6
	保護者	お子様は、進んで体を動かし、体力づくりに励んでいる。	78	3.0
	教職員	体力の向上と強い意志力を育む体育的活動に努めている。	86	2.8
6	児童	友だちはやさしく、なかよく遊んでいる。	97	3.7
	保護者	お子様は、思いやりをもち、友達なかよく過ごしている。	100	3.5
	教職員	子どもの人間関係に配慮し、いじめや差別を許さない意識や態度を育てている。	100	3.7
7	児童	進んで仕事をし、将来の夢にむかってがんばっている。	97	3.6
	保護者	お子様は、進んでお手伝いや仕事をするなど勤労意欲を高めている。	70	2.9
	教職員	様々な職業や勤労の大切さを理解させ、進んで働こうとする意欲や自分の将来の夢に向かって努力する態度を育てている。	71	2.7
8	児童	学校の施設は安全に使い、きれいで気持ちが良い。	100	3.9
	保護者	学校は、安全で環境が整っている。	100	3.6
	教職員	学校施設の安全面に気を配り、環境の整備、美化に努めている。	100	3.6
9	児童	「早ね・早起き・朝ごはん」ができ、手洗い・うがいなどに気をつけている。	94	3.5
	保護者	お子様は、基本的生活習慣が身に付いている。	85	3.2
	教職員	規則正しい基本的生活習慣の確立に努めている。	100	3.4

10	児童	家族や地域の人、友達、先生に元気なあいさつをしている。	100	3.9
	保護者	お子様は、進んで元気な挨拶ができています。	93	3.2
	教職員	子どもが進んで挨拶や会釈ができるように指導している。	100	3.7
11	児童	先生は自分の話をよく聞いて、困ったときには相談にのってくれる。	97	3.8
	保護者	学校(先生)は、何でも相談しやすい雰囲気がある。	85	3.3
	教職員	子どもや保護者の話をしっかり聞き、個に応じた教育的支援・指導を適切に行っている。	86	3.1
12	児童	先生は自分のことをほめてくれる。	100	3.9
	保護者	学校(先生)は、子どもたちのことをよく理解し、一人一人を伸ばそうとしている。	92	3.2
	教職員	子どものよい点を見つけ伸ばすように努めている。	86	3.1
13	児童			
	保護者			
	教職員	学校は働き方改革に積極的に取り組む等、管理職や中堅教職員を中心とした組織的な運営を行っている。	100	3.7
14	児童			
	保護者			
	教職員	現代的な課題や児童の課題の具体的方策に関する研修に積極的に取り組み、効果を上げている。	100	3.3
15	児童	浅海小学校には、ほかの学校にないよさがある。	100	3.9
	保護者	お子様は、浅海を大切に思い、自慢できるふるさとだと思っている。	100	3.7
	教職員	小規模校だからできる行事や活動の充実に努め、浅海愛にあふれる児童の育成に努めている。	100	4.0
16	児童	運動会・遠足・浅海オレンジタイムや見学・体験学習などの行事、活動は楽しい。	97	3.8
	保護者	学校(先生)は、地域の特性を生かした行事や様々な活動を実施し、子どもたちも楽しく活動している。	100	3.6
	教職員	教育活動の充実に向けて、地域や保護者と連携・協力を努め、地域の特性を生かした体験的な学習や活動を実施している。	100	3.7
17	児童			
	保護者	学校(先生)は、積極的に情報を発信し、学校の様子がよく分かる。	93	3.4
	教職員	学校だより・学年だより・ホームページなどで積極的に情報発信している。	100	3.7
18	児童	パソコンやタブレットを使った学習は楽しく、分かりやすい。	97	3.6
	保護者	学校(先生)は、パソコン等を活用した授業を行っている。また、掲示物も工夫されている。	100	3.6
	教職員	情報機器の活用や展掲示の充実に努め、学習効果を高める教育環境づくりを行っている。	100	3.3

〔自由記述のご意見〕

ご意見	学校からの回答
<ul style="list-style-type: none"> 複式学級での学習面が不安です。 	<ul style="list-style-type: none"> 複式の授業においては、学習アシスタント・外国語アシスタントの効果的な活用に努めたり、子どもたち同士でも学習が進めることができるよう、リーダーの役割を定着させたりするなど授業改善に努めています。また、教科によっては教頭が授業を担当することにより、複式を解消した授業を行っています。今後も、複式学級における学習指導の充実に努めていきたいと思っております。
<ul style="list-style-type: none"> アンケートで「名前」の記入があると、意見を出しにくくなると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> 貴重なご意見やご感想に対して、学校から個別に回答させていただくこともあるため名前欄を設けていますが、匿名を希望されてもかまいません。

3 アンケートの考察

- 児童・保護者・教職員共に、項目1の肯定率が高いことから、児童は楽しく学校生活を送っていることが分かる。
- 項目2・3・4では、児童・教職員と保護者との数値に差がある。特に保護者の肯定率が低い。学校の取組や学校での児童の頑張りが、家庭で十分に反映されていないことが考えられる。また、児童はオレンジっ子クラブで決められた時間（30分）学習に取り組んでおり、その日の家庭学習を終えることもある。そのため、家庭に帰ってからの学習時間が短い児童もいると思われる。このように、学校と家庭での学習への取組に個人差もあり、保護者は児童の家庭での学習状況には十分満足していないということが考えられる。
- 項目7のキャリア教育については、保護者、教職員共に数値が低い。第1回の数値も低く、重要課題の一つである。児童の肯定率(97%)を見ると、進んで仕事をし、将来への夢に向かって頑張っているという意識は高い。大人としてその頑張りを認めアドバイスしていくことも大切である。しかし、教職員はその機会や体験をもっと大切に捉えたいと考え、保護者は勤労観とは少し違う、家庭での手伝いができるかどうかという評価になっていると思われる、学校でキャリア教育に取り組む姿と家庭での姿の差が表れていると考える。
- 項目8の学校施設、環境については、児童・保護者・教職員共に肯定率が高い。今後も、児童の安心・安全を第一に考え、整備・美化に努めていきたい。
- 項目15・16については、児童・保護者・教職員共に肯定率が高い。地域に見守られて成長させていただいているという、地域を大切に思う児童、保護者、教職員の思いの表れであると考える。
- 項目18は、児童、教職員共に第1回目の評価より肯定率が高くなっている。改善策として教職員による授業研究を行ったことも要因と考える。教職員のスキルアップを図り、授業改善に努めたことが授業の中で生かされ、児童の意識に反映されたと考える。

4 今後の改善策

- 生活面、学習面における学校での取組が、家庭でも継続し身に付いていくように、それぞれの立場でより効果的な見取りや声掛けなどを行い、学校と家庭、地域との今後一層の連携、協働に努めたい。
- オレンジっ子クラブと連携して、項目2・3・4の学習面に関する手立てを検討していきたい。オレンジっ子クラブにおける学習の在り方について共通理解を図り、「30分」の学習を充実させたいと考える。そのため、「学習室2」を放課後の学習専用教室とすることにより、オレンジっ子クラブでの学習環境を整えたい。

また、家庭に帰ってからも習い事や塾等に通う児童は多いが、家庭学習の大切さも理解させたいと考える。オレンジっ子クラブでの学習時間と家庭での学習時間の配分や内容を明確にし、家庭での学習時間の確保と充実に向けて検討していきたい。特に、児童の主体的な学習態度が身に付くような手立てを考えていきたい。
- キャリア教育については、前回同様、教育活動全体を通して行われるという教師自身の意識を高めていくことが重要だと考える。そのために、指導計画の中に「キャリア教育」の視点を明記するなど、修正していきたい。また、学級における係活動や高学年における委員会活動など、日々の活動の中で勤労の大切さを理解させたり、役割・責任を果たす達成感を味わわせたりすることで家庭での手伝いや勤労観へとつなげ、キャリア教育の充実を図りたい。

また、家庭への啓発としては、HPや学校だよりを活用して、「キャリア教育」という言葉を明記して具体的な活動を紹介していきたい。